



平成27年11月10日  
国土交通省中部地方整備局

## ～海外港湾技術者の技術力向上に貢献～ 海外16カ国の研修員が名古屋港を視察しました。 (開催報告)

### 1. 概要：

現在、独立行政法人国際協力機構（JICA）が開発途上国の港湾管理の責任を有する幹部職員に対して、港湾行政及び管理運営分野の更なる知識習得を図ることを目的に平成27年度課題別研修「港湾戦略運営」を実施しています。

研修員は、アフリカ、中東、南米、南太平洋、アジア等で港湾管理を行っている幹部職員で、自国の港湾を発展させるため、日本の港湾開発、港湾運営等の技術を学んでいます。

研修の一環として、平成27年11月5日（木）に海外16か国18名の研修員を名古屋港にて受け入れ、港湾施設の視察を行いました。名古屋港の視察では、物流施設の一つであるTCB（飛島コンテナ埠頭株式会社）を訪問して、日本初の自動化コンテナターミナルの荷役作業を視察しました。

\*TCBIについては、以下のウェブサイトからご覧になれます。

<http://www.tcb-terminal.co.jp/index.html>



【TCBの荷役状況を視察】

### 2. 研修の様子

別紙 ※研修の状況写真がご希望の方は対応いたしますので、お問い合わせください。

3. 配布先： 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ  
港湾空港タイムス、港湾新聞、日本海事新聞、海事プレス

### 4. 問合せ先：

中部地方整備局 港湾空港部 (<http://www.pa.cbr.mlit.go.jp/index.html>)

港湾物流企画室長 柴田（しばた）、課長補佐 澤田（さわだ）

Tel 052-209-6330 Fax 052-203-9739

## □研修の様子(詳細)

### 1. 研修の参加者と行程

(1) 出身国・所属 :

ブラジル、カンボジア、コートジボアール、エジプト、エルサドバトル、ガボン、インドネシア、イラン、ケニア、マダガスカル、モロッコ、ミャンマー、パプアニューギニア、フィリピン、南アフリカ、ベトナムの16カ国から18名

(2) 行程(概略) : 13:30~14:30 飛島埠頭コンテナターミナル視察



【TCBの概要説明を受ける研修員】



【TCB職員と意見交換する研修員】



【自動化コンテナターミナルの遠隔操作室を視察】



【TCBを見学する研修員】

### 2. 視察の様子

TCBの概要説明では、世界で初めてラバータイヤ式ガントリークレーンの遠隔自動化を実現し、日本で初めて自動制御による無人のコンテナ輸送用台車を導入している先進的なシステムに対し、研修員から活発な質問がありました。その後、遠隔操作室でオペレーションの様子などを興味深い様子で視察していました。

【感想】視察を終えて、研修員の皆様を代表し、モロッコの方に感想を伺いました。

「私は、自動化ターミナルを見たのは初めて。とても印象に残った。大変洗練されたシステムで素晴らしいと感じた。モロッコにも大きな港があるが、TCBのように自動化はされていない。このような優れた技術を参考に、モロッコの港をより発展させていきたい。」